

54

昭和十八年三月十七日

上海共同租界回收實施措置要領（案）

第一、方針

上海共同租界行政權ノ支那側ニ依ル回收實施ハ「租界還付及治外法權撤廢ニ關スル日本國中華民國間協定」ノ本旨ニ從ヒ「大東亞戰爭完遂ノ爲ノ對支處理根本方針」ノ趣旨ヲ具現スル如ク其ノ措置内容ヲ定ムルモノトシ回收實施ノ時期ハ本年七月末ヲ目途トス

第二、要領

措置要領ハ概ネ左ニ準據スルモノトス

甲、措置内容概定

一、共同租界行政權

外務省

0286

53

0287

イ、共同租界行政權ハ協定ニ基キ支那側ニ於テ回收スルコトヲ承認セルニ由リ上海共同租界土地章程及同補則等ニ基キ從來工部局ノ行使シ來レル一切ノ行政權（越界路管轄權ヲ含ム）ハ支那側ニ於テ回收スルモノトスルコト

ロ、右ニ伴ヒ
（1）舊共同租界工部局勤務者（敵性國人ヲ除ク）ハ協議ノ上概ネ支那側ニ於テ引繼キ主トシテ舊租界ニ關係アル行政部門ニ活用スルモノトスルコト

外務省

56

(2) 舊共同租界工部局ニ屬シタル一切ノ公共施設並ニ資産負債ハ支那側ニ於テ繼承スルモノトスルコト

(3) 舊共同租界工部局ノ文書類ハ支那側ニ於テ引繼ヲ受クルモノトスルコト

ニ不動産ニ關スル權利

舊共同租界内(舊越界路地區ヲ含ム)ニ於ケル土地建物等不動産ニ關スル各國及各國人ノ權利利益ノ享受ヲ確保スル爲所要ノ措置ヲ講スルコト(但シ敵産處理ニ付テハ既定方針ニ依ルコト)

外國人名義ナルモ事實上支那人ニ屬スル土地建物等ニ付テハ當該支那人ノ正當利益保護ニ遺憾ナカラシムルコト

外務省

0288

57

ニ新上海特別市ノ管轄區域及行政機構等

共同租界行政權回收及上海佛租界還付實施後ノ上海特別市ノ管轄區域及行政機構等ニ付テハ支那側ヲシテ概ネ左ノ如ク措置セシムルコト

イ、舊共同租界、舊越界路地區及舊佛租界ハ上海特別市ニ編入シ新上海特別市ノ管轄區域ハ右ノ外現狀通トスルコト

ロ、新上海特別市政府管下ノ區ハ概ネ現狀ニ從ヒ市中心區、滬北區、滬西區、南市區、浦東南區、浦東北區、寶山區、嘉定區、北橋區、奉賢區、南匯區、川沙區及崇明區トシ舊共同租界、舊越界路地區及舊佛租界ト從來ノ市中心區ハ合體シテ新ナル市中

外務省

0289

心區トシ西部越界路地區ハ滬西區ニ合體セシムルコト（但シ市管轄區域ノ疆域ヲ縮少セサル限リ鄉村地區等ノ區ノ編合ニ付テハ所屬ニ應シ適宜ノ處置ヲ認ムル餘地ヲ存スルコト）

ハ、新上海特別市政府ノ中樞部組織ヲ強化スルト共ニ新市中心區行政機構ヲ官治組織ノ下ニ統合整備スル爲所要ノ措置ヲ講スルコト（但シ我方ハ市政府機構中日本人乃至外國人ノ參加セル特別ノ議決機關ノ設置ヲ要求スルコトナシ）

ニ、新上海特別市ノ行政運用ニ當リテハ廣域大上海ヲ以テ日華提携具現ノ模範地區タラシムルコトヲ特ニ重視シ之カ爲市政府要部乃至市中心區行政機構中日華協力上特ニ必要ナル部門ニ所要ノ日本人顧問又ハ職員ヲ招聘採用スルト共ニ市政府當局ト民國當局トノ定期的懇談會合ヲ設クルモノトスルコト

ホ、新上海特別市政府廳舍本館ハ舊租界内ニ移スコト

四、舊租界在住者ノ居住、營業、福祉等

イ、支那側ヲシテ舊租界（舊越界路地區ヲ含ム）ニ於ケル施政ニ當リ在住者ノ居住、營業及福祉等ニ關シ尠クモ従前ノ程度ヲ維持セシムルコト

ロ、右ニ對應シ舊租界（越界路地區ヲ含ム）内日本人其ノ他治外

66

法權國人ヨリ治外法權ニ基ク課税問題ノ處理ヲ見ルニ至ル迄概
 ネ從來ノ租界賦課金額ヲ支那側ニ寄附スル如ク所要ノ措置ヲ講
 スルコト
 公共事業
 租界内ニ於ケル敵産タル公共事業（電力、電話、水道、瓦斯、
 「バス」、電車等）ノ處理ニ付テハ上海特別市ノ財政的基礎ヲ
 モ考慮シ適當ノ措置ヲ講スルコト

0292

67

乙、支那側トシテ細目取極
 共同租界回收實施ニ關シテハ前記甲ニ概定セラレタル各項ノ趣
 旨ヲ實現スルコトヲ目的トシ右ノ中支那側ト協議決定ヲ要スル
 モノニ付細目取極ヲ締結スルコト
 丙、第三國關係
 關係第三國ニ對シ支那側ニ依ル共同租界回收ニ付所要ノ施策ヲ
 爲スコト
 丁、上海佛租界關係
 上海佛租界處理ニ關シテハ前記共同租界回收實施措置要領ニ應
 シ所要ノ施策ヲ爲スコト
 備考 日華基本條約附屬祕密交換公文（甲）及「日支新關係調

0293

外務省

59

62

整ニ關スル協議書類「附屬祕密諒解事項（第五）」ニ定メタル日華經濟協議會ノ設置等ニ付テハ將來適當ノ時機ニ考慮スルモノトス

0295

0294

昭和十八年三月

上海共同租界回收實施措置要領（案）

第一、方針

上海共同租界行政權ノ支那側ニ依ル回收實施ハ「租界還付及治外法權撤廢ニ關スル日本國中華民國民間協定」ノ本旨ニ從ヒ「大東亞戰爭完遂ノ爲ノ對支處理根本方針」ノ趣旨ヲ具現スル如ク其ノ措置内容ヲ定ムルモノトシ回收實施ノ時期ハ本年七月末ヲ日途トス

第二、要領

措置要領ハ概ネ左ニ準據スルモノトス
甲、措置内容概定
一、共同租界行政權

外務省

外務省

イ、共同租界行政權ハ協定ニ基キ支那側ニ於テ回復スルコトヲ承認セルニ由リ上海共同租界土地章程及同補則等ニ基キ従來工部局ノ行使シ來レル一切ノ行政權（越界路管轄權ヲ含ム）ハ支那側ニ於テ回復スルモノトスルコト

ロ、右ニ伴ヒ、

(1) 舊共同租界工部局勤務者（敵性國人ヲ除ク）ハ協議ノ上概ネ支那側ニ於テ引續キ主トシテ舊租界ニ關係アル行政部門ニ活用スルモノトスルコト

外務省

(2) 舊共同租界工部局ニ屬シタル一切ノ公共施設並ニ資產負債ハ支那側ニ於テ繼承スルモノトスルコト

(3) 舊共同租界工部局ノ文書類ハ支那側ニ於テ引續ク受クルモノトスルコト

ニ不動産ニ關スル權利

舊共同租界内（越界路地區ヲ含ム）ニ於ケル土地建物等不動産ニ關スル各國及各國人ノ權利利益ノ享受ヲ確保スル爲所要ノ措置ヲ講スルコト（但シ敵産處理ニ付テハ既定方針ニ依ルコト）

外國人名義ナルモ事實上支那人ニ屬スル土地建物等ニ付テハ當該支那人ノ正當利益保護ニ遺憾ナカラシムルコト

外務省

57

→新上海特別市ノ管轄區域及行政機構等
共同租界行政權回收及上海佛租界還付實施後ノ上海特別市ノ管轄區域及行政機構等ニ付テハ支那側ヲシテ概ネ左ノ如ク措置セシムルコト

イ、舊共同租界、舊越界路地區及舊佛租界ハ上海特別市ニ編入シ新上海特別市ノ管轄區域ハ右ノ外現狀通トスルコト
ロ、新上海特別市政府管下ノ區ハ概ネ現狀ニ從ヒ市中心區、滬北區、滬西區、南市區、浦東南區、浦東北區、寶山區、嘉定區、北橋區、奉賢區、南匯區、川沙區及崇明區トシ舊共同租界、舊越界路地區及舊佛租界ト從來ノ市中心區ハ合體シテ新ナル市中

外務省

0298

58

心區トシ西部越界路地區ハ滬西區ニ合體セシムルコト(但シ市管轄區域ノ區域ヲ縮少セサル限リ鄉村地區等ノ區ノ編合ニ付テハ所屬ニ應シ適宜ノ處置ヲ認ムル餘地ヲ存スルコト)
ハ、新上海特別市政府ノ中樞部組織ヲ強化スルト共ニ新市中心區行政機構ヲ官治組織ノ下ニ統合整備スル爲所要ノ措置ヲ講スルコト(但シ我方ハ市政府機構中日本人乃至外國人ノ参加セル特別ノ議決機關ノ設置ヲ要求スルコトナシ)

外務省

0299

59

ニ、新上海特別市ノ行政運用ニ當リテハ廣域大上海ヲ以テ日華
 提携具現ノ模範地區ヲラシムルコトヲ特ニ重視シ之カ爲メ市政府
 要部乃至市中心區行政機構中日華協力上特ニ必要ナル部門ニ所
 要ノ日本人顧問又ハ職員ヲ招聘採用スルト共ニ市政府當局ト
 民國當局トノ定期的懇談會合ヲ設ケルモノトスルコト
 ハ、新上海特別市政府總會本館ハ舊租界内ニ移スコト
 以舊租界在任者ノ居住、營業、福祉等
 イ、支那側ラシテ舊租界（舊邊界路地區ヲ含ム）ニ於ケル施政
 ニ當リ在任者ノ居住、營業及福祉等ニ關シ特ニモ從前ノ程度ヲ
 維持セシムルコト
 ロ、右ニ對應シ舊租界（邊界路地區ヲ含ム）内日本人其ノ他治外

0300

60

法權國人ヨリ治外法權ニ基ク課税問題ノ處理ヲ見ルニ至ル迄概
 本從來ノ租界賦課金額ヲ支那側ニ寄附スル如ク所要ノ措置ヲ講
 スルコト
 公共事業
 租界内ニ於ケル財産タル公共事業（電力、電話、水道、瓦斯、
 「バス」、電車等）ノ施設ニ付テハ上海特別市ノ財政的基礎ヲ
 モ考慮シ適當ノ措置ヲ講スルコト

0301

外務省

外務省

61

乙、支那領土ノ領土收復

共同租界開放實施ニ關シテハ前記甲ニ規定セラレタル各項ノ趣
旨ヲ實現スルコトヲ目的トシ右ノ中支那領土協議決定ヲ據スル
モノニ付領土收復ヲ開始スルコト

丙、第三國關係

關係第三國ニ對シテ支那領土依ル共同租界開放ニ付所要ノ施設ヲ
爲スコト

丁、上海租界關係

上海租界開放實施ニ關シテハ前記共同租界開放實施措置要領ニ應
ジ所要ノ施設ヲ爲スコト

備考 日華基本條約附屬協定交換公文(甲)及一日支新關係調

外務省

0302

62

密ニ關スル協議書案「附屬協定事項」第五(ニ)ニ定メテ
ル日華經濟協議會ノ設置等ニ付テハ將來適當ノ時機ニ考慮
スルモノトス

0303

外務省

63

治外法權撤廢ニ關スル件

昭和十八、三、十九

一 帝國ノ中華民國ニ於テ有スル治外法權ノ撤廢ニ關シテハ先ツ一租界還付及治外法權撤廢等ニ關スル日本國中華民國間協定」第六條ニ基キ專門委員會ヲシテ具體案ヲ審議作成セシム

右專門委員會ニ於ケル帝國委員ニ對スル指導要領ハ差當リ概ネ別紙「治外法權撤廢ニ關スル具體案作成要領腹案」ニ據ル

二 前記專門委員會ニ於ケル具體案ノ審議作成ヲ俟テ之ヲ參酌シタル上逐次本件ニ關スル帝國政府ノ具體方針ヲ決定シ支那側ト所要ノ取極ヲ締結ス

64

備考 別紙「治外法權撤廢ニ關スル具體案作成要領腹案」ハ

差當リ主トシテ課税ニ關スル事項ニ限定シタルモ爾他ノ事項即チ警察權ニ關スル事項、裁判權ニ關スル事項及内地開放ニ關スル事項等ニ付テハ專門委員會ニ於ケル審議ノ進捗等ニ應シ別途所要事項ヲ作案追加スルモノトス

0305

0304

別紙

昭和十八(二)、十九

治外法權撤廢ニ關スル具體案作成要領腹案

第一、方針

一、治外法權撤廢ニ關スル具體案ノ内容ハ「租界還付及治外法權撤廢等ニ關スル日本國中華民國間協定」ノ本旨ニ從ヒ「大東亞戰爭完遂ノ爲ノ對支處理根本方針」ノ職旨ヲ具現スル如ク之ヲ定ム但シ在留邦人ノ生活活動ニ對シ急激ナル變動ヲ與フルカ如キ結果トナラサル様留意スルト共ニ神社、教育、兵事等ニ付テハ所要ニ應ジ特別ノ考慮ヲ拂フ

二、治外法權ノ撤廢ニ伴ヒ實行セラルヘキ中華民國ニ於ケル内地開

外務省

放ニ關スル具體案ノ内容ハ在留邦人ノ安住發展ヲ確保スルモノタラシムル如ク之ヲ定ム但シ日華提携ノ根本精神ニ反スルカ如キ結果ヲ生ゼシメサル様留意ス

甲、實施段階豫想

課税ニ關スル特權、警察權、裁判權等事項別ニ依リ段階的ニ處理スルモノト豫想シ具體案作成ハ先ツ課税ニ關スル事項ヨリ着手スルコト

内地開放ノ實施段階豫想ハ別途定ムルコト

乙、課税問題處理ニ關スル具體案作成

専門委員會ニ於ケル帝國委員ハ具體案ノ審議作成ニ當リ概ネ左ノ腹案ヲ標準參考トスルコト

外務省

一、中國側課税ノ承認
 イ、日本國臣民カ中華民國領域内ニ於テ中國側課税ニ服スルノ原則ヲ認ムルモノトスルコト
 右原則ノ承認ハ中華民國トノ條約ニ依ルモノトスルコト
 右條約中ニ於テ日本國臣民ノ服スヘキ中國側課税ノ範圍及其ノ適用ノ懸様ハ豫メ在華帝國大使ト國民政府外交部長トノ間ニ協議決定セララルヘキモノトスルコト
 ロ、前項ニ依リ協議決定セラレタル事項ハ日華双方ニ於テ適當ノ方法ヲ以テ公示スルモノトスルコト
 ハ、第一次調整ノ對象タルヘキ課税ニ付テハ在華帝國臣民ノ稅力及民團稅トノ競合等ヲ慎重考慮シ帝國臣民ノ生活活動ニ

外務省

激ナル變動ヲ與ヘサルト共ニ特ニ民團會ノ教育費ニ重大ナル支障ヲ來ササル様適當ノ稅目及稅率ヲ選擇スルコト
 要スレハ過渡的輕減稅率ノ適用ヲ考慮スルコト
 ニ、警察權及裁判權等撤廢ニ至ル迄ハ中國側課税ノ徵收ハ強制執行權ヲ伴ハサルモノトスルコト但シ之カ實效ヲ期スル爲日本側ニ於テ省令制定其他適當ナル方法ヲ考慮スルコト
 ホ、日本國臣民ノ課税標準決定ニ付テハ其ノ適正ヲ期スル爲日本人居留民團體等適當ナルモノニ諮問セシムルコトヲ考慮スルコト
 ヘ、中國側課税承認ニ伴ヒ成ル可ク速ニ中國側稅制ヲ整備セシムルコト殊ニ中國側ノ當該稅制カ今次調整ノ主タル障害ト認メ

外務省

69

ラルヘキ税目ニ付之ヲ促進スルコト
 一、居留民團體ノ課金等ニ關スル事項
 イ、所要期間居留民團體ノ課金徴收ノ建前ハ之ヲ存續セシムル
 コト但シ逐次左ノ如キ方法ヲ考慮スルコト
 居留民會費、學校組合費及寄附金
 國策會社ヨリノ寄附金
 ロ、前項等ノ場合ニ於ケル收入ノ減少ニ依ル教育費補填ニ付テ
 ハ國庫補助金増額ヲ考慮スルコト
 三、課税問題處理ニ關スル具體案作成完了時期
 前記中國側課税ニ關スル中華民國トノ條約ハ概ネ本年七月末迄
 ニ之ヲ成立セシムルモノトシテ從テ右條約ノ參考ニ資スヘキ專門

0310

70

委員會審議ノ具體案ハ概ネ本年五月末迄ニ作成ヲ了スルモノト
 スルコト
 備考 治外法權撤廢ニ關スル爾餘ノ問題及内地開放問題ニ付テ
 ハ別ニ定ム

0311

外務省

外務省

92

昭和十八年四月十四日記

基本條約ニ關スル問題

0312

93

内容

- 一 條約改訂ノ聲明
- 二 基本條約ノ目的ハ終了セリ
- 三 新政權ノ推進カ英米及「ソ」聯ニ與フル影響
- 四 北支ノ形勢
- 五 基本條約改訂ノ機ヲ逸スヘカラス
- 六 基本條約改訂要項

0313

REEL No. A-0231

アジア歴史資料センター

参考

- 一、日華基本條約ノ内容
- 二、東條總理陳特使會談要録

本年一月九日支那参戰ノ際ニ日本政府ハ聲明書ヲ以テ既往ノ條約ニ付テ改訂ヲ考慮スヘキ旨發表シ右ハ明ニ基本條約改訂ヲ指スモノナリトノ印象ヲ與ヘタルカ右聲明ハ三月十三日東條總理南京訪問ノ際汪主席歡迎宴席上ノ演說ニ於テ之ヲ繰返シ更ニ南京訪問ニ關スル新聞發表(福岡ニ於ケル)ニ依ツテ之ヲ確認セリ

然ラハ基本條約締結ノ目的ハ今ヤ達成セラレタリヤ

基本條約締結ノ主タル目的ハ之ニ依ツテ國民政府ヲ承認スルト共ニ支那ニ進行中ノ我軍事目的達成ヲ企圖シタルモノナリ、(別紙日華基本條約ノ内容参照)即チ右ハ重慶政權ト對立シテ南京國民政府ヲ建テテ之ヲ中國政府トシテ承認シ支那統一ノ爲メニ武力的

ニ協力スル目的ヲ有シタルモノナルカ、右ノ形勢ハ昭和十七年十一月八日帝國カ大東亞戰爭ヲ宣言シテ世界戰爭ニ參加セルト共ニ一變シ更ニ昭和十八年一月九日支那自體カ參戰シテ帝國ト共同戰線ニ立ツニ至リテ根本的ニ變化セリ、今日支那ハ單ニ帝國ノ承認セル自主獨立ノ國家タルノミナラス帝國ノ同盟國トシテ戰友タル地位ヲ執ルニ至レリ、茲ニ於テ日支ノ關係ハ根本的ニ變改シ帝國ハ遂ニ支那ヲ完全ナル對等自主ノ同盟國トシテ取扱フノ決意ヲ表示セリ、之カ爲メ支那ト軍事、政治及經濟上ノ協力ヲ宣言スルト共ニ支那ノ爲メ不平等條約ノ改訂ニ着手シ先ツ租界ノ返還ヲ實施セリ

斯ノ如クシテ基本條約ノ目的ハ既ニ達成セラレタリ、若シ夫レ基

本條約ノ規定スル幾多ノ諸規定ニ至リテハ實質上今日不必要ナルカ又ハ無益ナルモノ多ク、若シ今日基本條約ヲ廢棄ストスルモ殆ト失フヘキ何等ノ實益ナキ有様ナリ

然ルニ之ヲ支那側ヨリ見ルニ基本條約ナルモノハ其ノ大部分カ支那側ニ方的義務ノ負擔ニ終始シ殆ト支那ヲ殖民地扱ニシテ不平等條約ノ甚クシキモノトナリ居レリ若シ基本條約ノ不平等ノ形式及内容ヲ廢シテ平等互惠ノ同盟ノ條約ト改變セラレルニ於テハ假令其ノ内容ニ於テ大差ナシトスルモ支那側ノ面目ヲ保持スルコトヲ得テ一層我レト協力ノ目的達成ニ裨益スルコト疑フ容レヌ又日本側カ基本條約ノ抑壓ノ下ニ租界返還等ノ措置ヲ講スルハ無意味ニシテ基本條約存在ノ爲メ日本ハ租界等ノ返還ヲ行ヒ得ルモノナ

リト云フカ如キ敵側ノ宣傳ヲ完封スルコトヲ得ヘキ利益ニ至リテハ計リ知ルヘカテサルモノアリラン。

三對立新政策ガ目支共同ノ敵タル重慶側ニ絶大ノ衝動ヲ與ヘツツアルハ勿論、英米側ニ對シ與ヘツツアル反響亦頗ル大ナルモノアリ。蓋シ亞細亞帝國タル英帝國ガ亞細亞民族ヲ友トスル我新政策ニ依リテ大打撃ヲ受クルハ勿論亞細亞民族ノ保護者ヲ以テ任ズル米國ノ地位ハ之ニヨリテ奪ハルヘケレバナリ。新政策ハ實ニ敵ノ武器ヲ奪ヒテ我カ武器トナスモノナリ。

更ニ又新政策ハ支那ニ於ケル共產黨ヲ抗日口實ヲ奪フモノニシテ大局的ニ共產黨ニ打撃ヲ與ツルト共ニ更ニ防共協定ノ一員タル支那ヲシテ北支方面ヲ整理セシメ滿洲國下呼應シテ以テ有力ナル對

ソレ障壁トナラシメ得ル點ハ注意ヲ要ス。若シ新政策ヲ推進シ基本條約ノ規定スル北支特殊性ヲ消滅スルニ於テハ北支ニ於ケル重大ナル經濟危機ハ救ハルルト共ニ蘇聯ニ對スル強力ナル防壁ハ漸次構成セララルヘシ。

四而シテ北支ニ於ケル食糧不足ニ基ク今日ノ經濟的危機ヲ此儘放任セハ遂ニハ經濟的崩壞ノ責任ハ日本側ニ歸セラレ共產黨ハ益々勢ヲ得テ新政策ハ恢復シ難キ打撃ヲ受クヘシ。從ツテ此際速ニ此點ニ着眼シテ政治的ニ經濟財政的ニ北支ノ障壁ヲ撤廢シ基本條約ヲ改訂シ此ノ點ヲ救済シ、北方ノ衛リヲ堅メサルヘカラス。

五以上ノ諸點ヲ顧慮シ新政策ヲ進行ニ一歩ヲ進メ、内ハ我在支機關ヲ全支ニ亘ル完全ナル統整ヲ樹立シ、外ハ基本條約ヲ改メテ日支

同盟條約トナシ南北ヲ舉ゲテ支那統整ニ歸セシメ以テ全的ニ我ニ
 一致協力セシメ、對英米戰ニ當ルト共ニ、北方ノ衛ニ共同セシム
 ルヲ要ス。此新政策ノ一層ノ推進ハ實質的ニ何等我ニ損失ヲ齎ラ
 サズシテ戰爭遂行ニ至大ナル貢獻ヲナスヘキ性質ノモノナルカ、
 若シ躊躇逡巡シテ時機ヲ失シ例ヘハ西方ニ於テ「チユニス」ノ撤
 退等ノ如キ事態發生ニ依リテ實效ヲ逸スルニ於テハ極メテ遺憾ト
 セサルヲ得ス。宜シク時機ヲ逸セス斷行スヘキモソト思考セラレ
 而シテ其ノ方法トシテハ基本條約ノ如キ一國ノ主權侵害ヲ意味ス
 ル形式ヲ廢シ、此ノ點ハ南方「フィリピン」及「ビルマ」ニ對
 シテモ同シ。平等對等ノ同盟條約トナシ同盟條約中ニ基本條約規
 定ノ軍事上必要ナル條項ヲ保存スルノ方法ヲ可トスヘシ。

0320

外務省

六基本條約改訂要項ハ大要左ノ如シ
 一基本條約ヲ改メテ同盟條約トス。從ツテ同盟條約成立ト共ニ基
 本條約ヲ廢棄ス。
 二同盟條約ニ規定スヘキ重要ナル事項ハ
 イ、日滿華三國宣言及日華共同宣言ノ趣旨特ニ軍事上政治上經
 濟上ノ協力義務ヲ骨子トシテ極メテ簡單明瞭ニ規定スルモノ
 トス。
 ロ、軍事上必要ナル措置ハ右ノ趣旨ニ依リテ何等故障ナク行ヒ
 得ルモ特ニ必要ナルモノ及軍事ニ關聯スル必要事項ハ特ニ規
 定スルコトトス。或ハ特定ノ事項ハ軍事機密上祕密トスルコ
 トトス。

0321

外務省

602

ハ、特定地域ノ特殊性ハ一律之ヲ廢止シ右ノ點ニ付テハ事實上
ノ必要ニ應ジテ那側ト協議シテ必要ナル措置ヲ講スルコトト
シ然ルヘシ
其ノ他ノ經濟的規定ハ舉ケテ之ヲ整理廢棄シテ那側ノ自發的
措置ニ任シテ可ナルヘシ

外務省

0322

参考

極秘 (國家機密)

(昭和十七年十月十五日記)

日華基本條約ノ内容

第一 基本條約關係

第二 協議書關係

外務省

0323

REEL No. A-0231

アジア歴史資料センター

第一 基本條約關係

基本條約ハ昭和十四年十二月三日上海ニ於テ日支間ニ作ラレタ日支新關係調整ニ關スル協議書類ト稱スル複雜多岐ニ目ル取リ極メニ基イテ寧ロ其ノ重要部分ヲ引キ拔キテ條約ノ形ニ作ラレタモノデアリ基本條約締結ニ依ツテ國民政府ハ支那政府トシテ帝國ニ依リ正式ニ承認セラレ而シテ今日附日滿華三國共同宣言ニ依ツテ滿洲國モ之カ承認ヲナシタ譯テアル

基本條約關係ノ文書ハ(一)條約(二)附屬文書ヨリ成リ附屬文書ハ(イ)附屬議定書及(ロ)附屬議定書ニ關スル日華兩國全權委員間了解事項ヨリ成ツテ居ル、尙直接關係ノ文書トシテ日滿華共同宣言ノ存在ハ前述ノ

0324

通リテアル。基本條約ニハ附屬秘密協約ト附屬秘密約定トノ外秘密交換公文甲及同乙トカ存在スル

以下其ノ内容ニ付テ説明スル

二

昭和十五年十一月卅日日支間ノ基本條約ハ其ノ前文ニ於テ「兩國相互ニ其本然ノ特質ヲ尊重シ東亞ニ於テ道義ニ基ク新秩序ヲ建設スルノ共同ノ理想ノ下ニ善隣トシテ緊密ニ相提携シ以テ東亞ニ於ケル恒久平和ヲ確立シ」云々トノ大目的ヲ宣言シテ居ル。其ノ趣旨ヲ實行スル爲メニ第一條ニ於テ相互ニ主權及領土ヲ尊重シツツ政治、經濟文化等各般ノ事柄ニ共助スヘキヲ約シテ居リ第二條ニ於テ防共ニ關スル共同勲作ヲ規定シテ尙之カ爲メニ民國ハ日本軍ノ撤離及華北ノ

0325

一定ノ地域ニ駐屯スルコトヲ認メテ居ル。防共ハ從來主義ノ問題トシテ取扱ハレテ居ル問題デアツカ茲ニ政治軍事上恰モ蘇聯ニ對スル問題トシテ取扱ハレテ居ルノハ注意ヲ要スル第四條ニ於テ治安維持ニ關スル共同責任ヲ規定シテ之カ爲メ必要ノ駐兵地域等ニ關シテハ別ニ協議決定スルコトトナツテ居ル第五條ニ於テハ「從來ノ慣例ニ基キ又ハ兩國共通ノ利益ヲ確保スル爲メ艦隊部隊ヲ民國領域内ニ於ケル特定地域ニ駐留セシムルコトヲ規定シテ居ル。第六條ニ於テハ經濟提携ニ付テ資源ノ開發通商ノ振興、物資ノ需給及產業、金融交通、通信ノ復興發達ノ諸問題ニ付テ規定シテ居ル。最後ニ第七條ニ於テ帝國ハ漸次治外法權及租界ノ返還ヲ行フコトトシ中國ハ居住

元來基本條約ハ全體トシテ一貫シタル解釋ヲナスコト困難デアツテ特ニ永久的規定ト一時的ノ規定トノ區別カ困難デアル。右ハ戰爭下ニ於ケル非常時局ノ際ノ條約トシテ差當ツテ重要ナ事項ヲ抽出シテ作ツタ結果ト認メラルルノデアル。此點カラ見テ右條約ハ一時的若ハ中間的ノ存在トモ見ラレル譯デアル。本條約ノ目的ヲ達成スル爲メニ尙將來所謂協議書類等ヲ基礎トシテ補足的ニ約定ノ締結スヘキコトヲ第八條ニ規定シテアル

三

附屬議定書ハ第一條及第二條ニ於テ戰爭行為續行中ノ特殊事項及其間ニ於ケル事態ノ調整ニ付テ規定シ第二條ニ於テ戰時終局ノ際ノ撤兵ハ治安維持確立ト共ニ二年以内ニ行フコトヲ規定シ第三條ニ於テ

日本國臣民ノ殺リタル損害補償ト支那難民救済ニ付テ規定シテ居ル
カ何レモ感念上明ニ一時的事項ニ付テ設ケタル取極メテアル
而シテ右附屬議定書規定ノ事項ノ實行ニ關シテハ了解事項ナルモノ
ヲ作成シテ支那側ニ各種ノ公平ナル保障ヲ與ヘテ居ル

四

以上ノ如ク日華基本條約ノ規定ハ實ニ複雜多岐ニ目ツテ居ルカ右條
約ト同一日附ヲ以テ發表セラレタ日滿華共同宣言ナルモノハ右條約
ノ主旨ニ付テ全般的解釋ヲ與ヘテ居ル點ハ重要ナル即チ共同
宣言ハ一主權及領土ノ尊重ニ互惠ヲ基調トスル三國間ノ一輪提携就
中善隣友好、共同防共及經濟提携ノ實ヲ望クヘキコトヲ宣言シテ居
ルノテアル、獨立自主ノ立場ト互惠平等ノ律前トヲ堅持セルコトハ

外務省

注目ニ價スル

五

基本條約ニ付テハ秘密取極メカアンナ其中附屬秘密協約ナルモノニ
於テ基本條約第五條ニ關聯シ艦船部隊ノ駐留權及内水航行權ノ供與
並華南沿岸ノ特定島嶼及之ニ關聯スル地點ニ於テ緊密ナル軍事上ノ
協力ヲ行フコトノ規定ノ東ニ廈門及海南島等ニ於テ國防上必要ナル
資源開發ノ約束ニ付テ居ル
而シテ附屬秘密協定ナルモノニ依ツテ外交ヲ軍事上ノ協力ニ付テ規
定シテ居ル
東ニ又秘密交換公文甲ニ於テ第一條ニ付第二華北防務委員會及兵
ノ運用ニ付テ第三揚子江下流地域及新上海ニ付テ第四海南島及附近

外務省

ノ諸島嶼。廈門第五日本人相問ノ招得ニ付テ支那側。シテ離解ナル
約束。ナリシメ帝國ノ特殊權益。設定シテ付ル
次ニ交換公文ノ乙ニ於テ戰爭行爲繼續期間中其目的完遂ニ付積極的
協力。ナスヘテ義務。中國政府ニ負ハシムルコト。重テ規定シテ
付ル

第二 協議書類關係

基本條約全般ノ解釋ニ一層ノ複雜性ト繼承性ト。因フルモノニ「議
事錄拔萃」ナルモノカアル。右ハ第十五回正式會議（昭和十五年八
月二十八日）ノ議事錄ノ拔萃ノ形ニナツテ居ル。斯ル方式ニ依ツテ
約束セラレタ項目中決議ノ第一ハ基本條約締結ノ基礎的資料トナツ

外務省

「日支新關係調整ニ關スル協議書類」即チ所謂「協議書類」（昭和
十四年十二月三十日上海ニ於テ日支間ニ作製）ノ效力問題ニ付テ
「アソナテ右協議書類ハ今後モ效力。存續シ尙引續キ其内容。具體化
シ得ニ約定ノ形式トナスヘテコト。決斷トナシテ居ル次第ナアル。
早スルニ協議書類ハ今後モ其ノ效力。有シ其内容ニシテ今回約定ノ
形トナラナカソタモノハ將來更ニ約定ノ形ニ直ス得ニスルト云フ事
ナアル。斯クノ如クシテ協議書類ノ内容及地位ハ複雜ナル基本條約
關係ノ一切ノ文書ト共ニ相關聯シテ日支ノ條約關係。一層紛糾セン
メテ居ルノミナラス基本條約其ノモノ。寧ロ具體化センメテ居ル。
議事錄拔萃ノ第二ノ決議ハ基本條約及附屬文書ノ作製セラレタル基
礎的原則。示シテ居ルナリ

外務省

「互恵・基調トスル日華ノ一般提携新中善隣共同防共・經濟提携原
則ノ設定、
「華北及蒙疆ニ於ケル日華ノ緊密ナル國防上及經濟上ノ合作地帯ノ
設定
防共ノ目的トスル兼攻ニ於ケル軍事上及政治上ノ特殊地位ノ設定
揚子江下流地域ニ於ケル日華間ノ緊密ナル經濟上ノ合作ノ具現
華南沿岸特定島嶼ニ於ケル日華間ノ緊密ナル軍事上ノ合作ノ具現
第四項目ヲ舉ゲテ云ル。右ハ何レモ條約又ハ附屬文書ニ規定ノア
ル點ナラカハ特ニ該條約ニ於テ以テ此ノ四點ヲ條約締結ノ基礎的原
則トシテ、決議セルコト條約全體ノ解釋上重要ナル點ナラソテ
從ソテ其ノ全文ヲ茲ニ掲ケルコトトシタ

0332

外務省

決議ノ第三ハ條約所定ノ關係ハ日華特有ノ關係ナラソテ該條約款
ノ適用範圍外ナラコトトシテ云ル
決議ノ第四ハ撤兵ハ治安確立ヨリ二ヶ年以内ニ行ハルヘク「治安
確立」ノ認定ハ「社會秩序カ能ク善隣友好的和平狀態ニ恢復スルニ
至レシコト」指スモノナルモ日本側ニ於テ治安不安定ニ名ヲ稱シテ
故意ニ撤兵ヲ阻引カンメントスルノ意思ナラコトノ保障ヲ與ヘテ
決議ノ第五ハ條約第八條ニ依ソテ將來締結セラルヘク約定トハ軍事
ノ間ニ締結トラルヘク軍事協定ニ包含セラルヘクコトヲ決定シテ

0333

外務省

已ニ協議書類カ有效ニ存続スルモノトスレハ其内容ニ付テ檢討ヲ
 スル。其内容中已ニ基本條約及附屬文書ニ收メ上ケラレタモノニ付
 テハ協議書類ハ此點ニ付テハ單ニ條約等ノ解釋ノ爲メニ役立ツニ過
 タズ。問題ハ基本條約關係ニ依リ上ケラレタ部分ニ付テアル。

協議書類ハ昭和十四年十二月卅日上海ニ於テ作製セラレ日本文ヲ以
 テ本文トシラレタ也。其ノ目次ハ左ノ通りナリ。

一 日支新關係調査事項

別紙第一 (日支新關係ノ調査ニ關スル基本原則) (一)、(二)、(三)、(四) 記
 者ノ附キルモノ)

別紙第二 (日支新關係調査ニ關スル具體原則)

秘密諒解事項

0334

第一 新中央政府ト既成政府トノ關係調査事項

第二 金融・財政關係事項

第三 經濟關係事項

第四 交通關係事項

第五 揚子江下流地帯ニ於ケル日支協力關係事項

第六 日本人顧問ノ職員招聘・採用關係事項

第七 主權尊重原則實行ニ關スル支那側事實ニ對スル回答關係
 事項

第八 雜件

三

日支新關係調査事項本文ハ(一)日支間ニ新ニ開交ニ關シテ調査スルモノトシテ(二)

0335

第五其ノ他ノ事項中ニ於テ「顧問職務ノコト」ニ國民救済ノコトニ日
本人ノ損害賠償ノコト等ヲ定メテ居ル
以上ノ各項ハ何レモ基本條約ノ各條ニ抽出セウレテ居ルモノカ多イ
從ツテ協議書類ノ之等ノ部分ハ基本條約文ヲ解釋スル上ニ之ヲ點檢
スルコトカ必要缺クヘカウサル次第デアル

四

秘密諒解事項ノ第一項目タル新中央政府ト既成政府トノ關係調整要
領ノ中第一北支臨時政府トノ關係規定ニ關シテ注意スヘキ點ヲ左ニ
摘記セム

「北支ノ定範トシテ北支トハ内長城線（ヲ含ム）以南ノ河北省及山
西省及山西省ノ地域トストセウレテ居ル。從ツテ蒙疆ハ内長城

外務省

0338

線（ヲ含ム）以北ノ地域トナル譯デアル。

「臨時政府ノ後ニ北支政務委員會ナルモノヲ設クルコトトシ。其ノ
權限及構成ニ關スル難解ニシテ複雑多岐ナル規定ヲ設ケテ居ル。

第二次ニ維新政府トノ關係規定ニ於テハ右政府解消ニ依リテ生スル
過渡的規定ヲ初メ揚子江下流地區ノ經濟合作機關（經濟協會）及
新上海問題ヲ掲ケ

第三更ニ蒙古自治政府トノ關係ニ付テ規定ヲナシ。之ニ對シテ高層
防共自治權ヲ認メシメ。

第四厦門ニ特別市設置

第五海南島及附近ノ島嶼ヲ一省トナシ軍事及經濟提携ニ關シテ日支協
力スヘキヲ規定シテ居ル。

外務省

0339

諒解事項第二金融財政關係ニ於テ一聯銀ヲ華興商業銀行ニ實業ニ付テ規定シ

諒解事項第三經濟關係ニ於テ合辦會社ニ關スル措置ニ付テ帝國大使ト協議スルコト及貿易統制ニ關シ規定シ

諒解事項第四交通關係ニ於テ航空鐵道海運水運及通信ニ關シ日支協力等ニ付テ規定シ

諒解事項第五揚子江下流地帯ニ於ケル日支協力關係事項ニ於テ所謂日支經濟協議會及上海特別市其ノ他ニ關シ支那側ノ執ルヘキ措置ニ關シテ混雜セル規定ヲシテ居ル。

諒解事項第六日本人顧問・職員招聘採用關係事項ニ於テ技術顧問選考職員ノ招聘ニ付テ更ニ又教授教官ノ招聘ニ付テ其ノシテ多岐ニ亘

外務省

リテ規定セフレテ居ル。

諒解事項第七主權尊重原則等ニ關スル中國側要望ニ對スル回答關係事項ニ於テ政治ニ付テハ

第一中央政府ハ政治顧問ヲ招聘セシメ協議連絡ヲ要スル事項ハ日本帝國大使ヲ通シテ行フコトヲ限定シ

第二日本軍ト省政府・特別市政府・縣政府・普通市政府等トノ協力ニ付テハ互ニ交渉職員ヲ通シテ行フコトトシ

第三各縣直轄班ハ速ニ解散スルコトヲ規定シ

次ニ軍事ニ付テハ
第一支那復讐軍隊ノ駐屯區域
第二第三國人ヲ軍事專家招聘ニ付テハ日本側ト連絡スルコト

外務省

第三、兵器製造工場ニ技師招聘ニ關シテ規定シテ居ル。
 更ニ經濟ニ付テハ
 第一、軍管理ノ工場、鑛山及商店ノ移管ニ關シテ
 第二、日支合辦事業ノ調整整理ニ付テ
 第三、合辦事業ノ出資割合
 等ニ關シテ重要ニシテ詳細ナル規定ヲナシ其大部分ハ基本協定中ニ包
 含セラレテ居ル。
 更ニ又財政ニ關シテハ支那財政ノ獨立尊重ヲ約シ
 第一、稅收機關
 第二、上海海關收入及關稅剩餘
 第三、關稅收入保管

0342

外務省

第四、外債及賠償金ノ基金保管
 第五、稅 稅
 第六、鹽 稅
 ニ付テ極メテ重要ナル約束ヲ期定シテ居ル。
 最後ニ「其ノ他」ニ於テ
 「長江開放」
 「京滬鐵道通行證首都停車場ノ檢査」
 ニ付規定カアル。
 諒解事項第八雜件中ニ於テ更ニ前記諒解事項中
 第一、諒解事項 第一、既成政府トノ關係中ノ規定事項
 第二、支那軍隊及警察ノ配置及之ニ對スル武器ノ供給

0343

外務省

第三 諒解事項第六 顧問招待ノ問題

第四 厦門

第五 海南島等

ニ關シ更ニ規定ヲナシテ居ル

0344

外務省

参考 二

東條總理大臣陳特使會談要録

昭和十八年四月九日午後五時三十分至同六時三十分

於首相官邸(星野書記官長、清水書記官同席)

一、陳特使ノ挨拶

陳 今回命ヲ奉シ特使トシテ訪日ヤルトコロ御優遇ヲ賜リ感激ニ堪
エス貴國ハ去ル一月九日租界ノ還付及治外法權ノ撤廢等ヲ約定セ
ラレタルカ還都三周年記念日ニハ逸早ク貴國ノ專管租界還付ヲ實
施セラレ且ツ北京公使館區域及厦門共同租界ノ回收ニ協力セラレ
タリ茲ニ特ニ謝意ヲ表スル次第ナリ尙中國ニ於テハ既ニ人力物力
ノ一切ヲ擧ゲテ大東亞戰爭ニ寄與セント決心シ居ルニ付テハ今後

0345-1

外務省

如何ニシテ人刀ヲ活用シ物刀ヲ運用シテ其ノ目的ヲ達成スヘキヤ
首相竝ニ各大臣ノ御教示ヲ仰キタシ

ニ對華新政策實施後ノ情況

陳 先ツ日本ノ對華新政策實施後ノ情況ヲ御報告致度シ

日本カ一月九日對華聲明ヲ發表スルヤ全國國民ハ大ニ感奮シ殊ニ
三月中旬經濟統制ヲ中國側ニ委ネラレ三月三十日ノ遷都記念日ニ
租開ノ還付實施セラルルヤ中國民衆ハ異常ナル衝動ニ驅ラレタリ
其ノ結果(一)從來厭々ナカラ物價ヲ供出シ居リタルモノモ暴騰以後
ハ右ハ中國側當然ノ義務ナルノミナラス一種ノ名譽ナリトサヘ考
フルニ至レリ此ノ氣持ノ變化ハ中日兩國ノ前途ニ極メテ良好ナル
影響ヲ與フルモノナリ(二)物價統制ヲ中國ノ自辦ニ委ネテヨリ物價

外務省

0345-2

ハ一二不合理的ニ暴騰スルモノヲ除キ全般的ニハ漸次低落ノ傾向
ヲ現出セリ(不合理的暴騰ヲ見タル品種ニ付テハ目下徹底的ニ調
査中ナリ) (三)特ニ喜フヘキハ上海ニ於ケル工場ノ復興ニシテ最近
工場主ノ聯合ニ依リ中央儲備銀行ヨリ五億元ノ資金ヲ借受ケ復工
ノ準備ニ取掛ルコトナレル

新政策ノ實施日尙淺ク經濟統制ノ機構モ尙完備セサルニ拘ラス其
ノ效果右ノ如ク極メテ見ルヘキモノアリ人心亦從ツテ安定スルニ
至レリ若シ今後着々之ヲ進ムルニ於テハ今後必スヤ驚クヘキ發展
ヲ見ルニ至ルヘキコトハ斷言シテ憚ラサル所ナリ
右ニ關シ重光大使ノ指揮セラルル大使館及現地ニ於ケル貴國陸海
軍當局カ何レモ首相ノ理想ト政策トヲ體シ國民政府側ノ豫期以上

外務省

0346

ノ努力ヲ傾注セラレツツアルコトヲ特ニ首相ニ報告スルト共ニ政府立國民ヲ代表シテ之ニ對スル深甚ナル謝意ヲ表スル次第ナリ尙新政策ノ對外的ニ與ヘタル影響ヲ推スヘキ材料トシテ最近二ツノ「ニュース」ヲ申上クヘシ

重慶側ハ蔣介石ノ機要秘書ノ歐ニアル劉某ヲ派遣シ來リ日本側及國民政府側ノ諒解ヲ得タシト申出テタリ其ノ言フ所ニ依レハ重慶側ニ於テハ世界戦争カ假令如何様ナル情況ニテ終結スルトモ結局中國ト日本トハ諒解セサルヘカラサル立場ニアリ即チ萬一英米カ勝ツコトアリトスルモ蘇聯ニ備フル爲メ歐洲ニテハ獨逸ヲ又東亞ニ於テハ日本ヲ殘存セシムヘキコトハ明カナリトノ見透シニ基クモノナル由ナリ

外務省

0347

更ニ一ツノ「ニュース」ハ共產黨ニ關スルモノナルカ最近延安ヨリ代表ヲ派遣シ來リ連絡ヲ求メントシツツアリ

要スルニ日本ノ新政策カ遂行セラレ中日關係カ漸次明明化スルニ伴ヒ和平運動ニ從事シツツアル吾々ノ氣持ハ益々確固トナリ之ニ反比例シテ彼等ノ氣持カ動搖スルコトハ言フ迄モナシ

一 日華基本條約ノ改訂ニ付テ

此ノ際自分ハ一個ノ希望ヲ述ヘタシ、ソレハ日華基本條約ヲ新政策實施後ノ事態ニ照シ幾ニ貴國カ既存ノ約定ニ付テモ中日關係ノ發展ニ伴ヒ之カ改廢ヲ考慮スヘキ旨聲明セラレタル趣旨ニ基キ新タニ之ヲ改訂シテハ如何ト云フコトナリ尤モ之ニ關シ後ノ諒解ヲ得タキコトハ一右ハ全ク自分個人ノ意見ニシテ國民政府ヲ

外務省

0348

代表セル意見ニ非サルコト、右ハ中國側ヨリノ要求トシテ持出シタルモノニ非サルコト、(三)中國側一方的ノコトヲ考ヘテノ意見ニ非ス中日兩國ノ爲メ將又東亞全局ヲ考ヘテソ希望ナルコト是レナリ抑モ日華基本條約締結當時ハ今日トハ異ナレル情勢下ニアリタリ即チ(一)當時ハ國民政府遷都勿々ノ際ニテ一舉ニ理想的ノ條約ヲ締結スルコトハ困難ナリシコト、(二)英米ノ勢力尙殘存シ日本ハ之ニ對抗スル爲中國ニ於テ種々ノ據點ヲ設クル必要アリタルコト、(三)日本ノ對華物資要求カ極メテ切實ナリシコト等是レナリ然ルニ此等ノ情勢ハ大東亞戰爭ニ依リ著シク變化セリ、(一)先ツ中國ノ參戰ニ依リ中日兩國ハ共同ノ立場ニ立チ兩國國民ノ感情ハ恢復シテ歷史上空前ノ親善關係ニ入レリ、(二)日本ノ華北駐兵ハ名目ハ防共ナレトモ實

外務省

質的ニハ防衛ナリ然ルニ今ヤ英米ノ勢力ハ既ニ一掃セラレ中國ト日本トハ生死ヲ共ニスル間柄ニアリ中國國內ノ防共ニ至リテハ中國自身之ニ當ルヲ以テソ蘇聯ノ脅威ニ對シテ共同作戰ニ出ツヘキハ固ヨリ當然ナリ、(三)大東亞戰爭以後日本ノ資源ハ豊富トナリ支那ニ輸ムルモノハ僅カニ棉花位ノモノトナレリ即チ基本條約ニ規定シアルカ如キ嚴重ナル規定ハ必要ナキニ至レルモノト考ヘラル。次ニ華北ノ問題ナルカ華北ハ原來半獨立ノ如キ状態ヲ以テ今日ニ至レリ其ノ故ニ至レルハ當時ノ實情ト希望トニ基クモノト謂フヘシ(一)實情トハ即チ事變後同地ニ臨時政府組織セラレ國民政府遷都後モ其ノ既成事實ヲ存続セシメタルタノ一種ノ特殊状態ヲ呈スルニ至リシコト、是レナリ、(二)希望トハ日本側ニ於テ從來華北ノ防共ト

外務省

經濟合作トニ全力ヲ奉ケサルヘカラス事情アリタル爲メ一種ノ
特殊機構ヲ作り之カ運用ニ使セントノ希望ヲ指スモノナリ
然レトモ一切ハ過去ノ歴史トナリ今ヤ中日兩國ハ直シク全体的ニ
合作スヘキ時期トナレリ殊ニ南北對立ノ状態ヲ放任スルコトハ兩
國國民ノ疑惑ヲ惹起セシムル點ニ於テ面白カラス自分ハ一昨年八
月中央公論ニ論文ヲ發表セル際ニ華北問題ヲ痛論セルコトアリ
光大使トモ本問題ニ付屢々意見ヲ交換シ大使ハ日本ハ決シテ中國
ヲ分割牽制スルカ如キ意思ナシト言ヒ自分モ實國カ根本的ニカカ
ル考ナキコトヲ確信スルモノナルモ奈何セン現状ハ中央ト華北ト
ノ政治、經濟、交通、金融等スヘテ別個ニシテ華北ハ宛然獨立國
ノ如キ觀アリ日本ハ此ノ機會ニ直シク英斷ヲ揮リテカカル疑惑ヲ

外務省

一掃スヘシ況ニヤ中國ノ參戰ヲ見タル今日人力物力ヲ奉ケテ日本
ニ協力スル爲メニハ全國一體トナリ全面的ノ計劃ヲ立ツル必要アリ
ルニ於テオヤ、是レ特ニ首相ノ考慮ヲ求ムル所以ナリ
日華基本條約ノ締結ト經濟、軍事協定ノ分離
以上自分ハ基本條約改訂ニ對スル輪廓概念ヲ申述ヘ御參考ニ供
シタル次第ナルカ具体的内容ニ付テハ今日甲上クル意思ナシ
唯基本條約ノ修正ト云フ時ハ國民ヲ刺戟スル惧モアルヘキニ付寧
ロ新タニ基本條約ヲ作ルト云フ建前ニテ手ヲ着クル方圓滿ニ進ミ
得ヘキカト考フ尙先刻述ヘタル物資ノ問題ハ兩方トノ交通關係上
遠カニ同地方ノ物資ヲ利用シ得サル實情ニアリ中國ヨリハ當分棉
花以外ニモ石炭、糧食等需要ノ急ナルモノアルヘキニ付是等物資

外務省

ノ供給ニ付テハ基本條約ノ外ニ一種ノ兩國間ニ於ケル戰時物資ニ
關スル臨時協定ヲ締結セハ可ナルヘシ駐兵ノ規定ニ付テモ同様ナ
リ

再基本條約改訂ノ效果

既 基本條約ノ改訂ハ如何ナル效果アリヤ、右ニ付テハ充分考慮セ
ルカ今同ノ新政策實施ノ效果ニ顧ルモ條約改訂ノ效果ノ大ナルコ
トハ實言ヲ要セサルヘシ殊ニ東亞ノ抗戰陣營ニハ如何ナル影響ヲ
與フヘキヤ是レ一大問題ナリ從來自分ハ所謂東亞工作ヲ論議スル
度ニ一吾々自身カ真ニ和平地區内ノ民衆ヲ把握シ得ル自信アリヤ
此ノ自信ナクシテ東亞側ヲ擡ルコトハ到底不可能ナリト述ビ來
レリ正面ニ告白スレハ自分ノ如キ選都以來三年間實ハ心中ニ此ノ

外務省

0353

自信ナカリシカ參戰後始メテ随タル自信ヲ得タリ吾々カ自信ヲ得
ルコトハ即チ逆ニ東亞側カ自信ヲ失フコトナリ茲ノ日華基本條約
ハ東亞カ來レハ改訂スルト云フ腹ニテ作リシモノナルカ今度ハ東
亞ノ來ルト否トニ拘ラス新タニ理想的ノ條約ヲ締結スルコト然ル
ヘント考フ

以上述ヘタル基本條約改訂問題ハ日本ノ立場ヲモ考慮シ兩國双方
ノ利益否東亞ノ立場ニ立チテ考ヘタル結果ナリ東亞ノ新情勢ニ照
シ日文關係ヲ更ニ鞏固ナランメントスル眞情ニ基キ首相ノ御參考
迄ニ甲上ケタル次第ナリ

外務省

0354

ハ東條總理ノ應酬

總理今同中國ノ參戰ヲ契機トシ日華兩國民ノ關係益々親密ヲ加フルニ至レルハ喜ビニ堪エス參戰ヲ決意シ且ソ之ニ伴ヒ國務ニ盡瘁シツツアル汪主席及國務院各部各位ノ努力ニ對シテハ感佩特ニ深シ其ノ後行政實施上種々ノ苦心ヲ拂ハレツツアルモノト察セラルル處日尙淺キニ拘ラス好結果ヲ望ケラレツツアルコトハ同慶ノ至ナリ延テ東亞側及共產黨ノ方面ニ迄影響ヲ與ヘ居レリトノ説明ヲ聞キ力強キ限リナリ今後トモ一層ノ努力ヲ期待スルモノナルカ日本トシテモ出來得ル限リ協力スル覺悟ナリ日本ノ對華政策ノ轉換ハ其ノ進行條件ヒ日華間ノ條約ニモ觸ルコトトナルヘキ次第ハ御承知ノ通ナリ唯今ハ極メテ根本的ノ條約改訂ノ點ニ觸レタル御話ヲ

外務省

0355

開キタル次第ナルカ國民政府ノ意見ヲ代表シタルモノニ非ス個人的ノ意見ナリト言ハレタリ但シ自分ハ之ヲ國民政府要人ノ意見トシテ深く念頭ニ留メ置クヘン政府ノ内閣總理大臣トシテハ以上ノ如ク答フル外ナキモ吾々ハ同志トシテ現ニ偉大ナル時局ニ直面シ此ノ戰爭ニ勝ツ爲メ最善ノ力ヲ盡ス必要アリ之レカ爲メ古キヲ改メテ行クコト必要トアラハ改ムヘン要スルニ唯今ノ御提案ハ充分研究スヘン

政府ノ立場トシテモ斯カル意見カ國民政府ノ要人ヨリ出テタル以上檢討シテ見ルヘン此ノ際オ互ニ最善ノ結論ニ到達シ戰爭ニ勝チ抜ク爲メニ努力致シタシ尙賢方ニ於テモ更ニ檢討セラレタキコトアリ

外務省

0356

(一) 大東亞ヲ建設シ大東亞戦争ノ完遂ヲ圖ルニ當リ蘇聯ノ脅威ヲ前
提トシテ考慮スル要アリ即チ日華滿三國ハ平固タル姿勢ヲ以テ
之ニ對處スル必要アリト思惟セラルルカ此ノ點如何
(二) 假リニ唯今ノ如キ意見ヲ容レテ新事態ヲ構成セル場合國民政府
ノ行政力ハ果シテ全國ニ浸透シ得ル自信アリヤ即チ吾人ハ國民
政府カ四億ノ民衆ヲ平ヒテ大東亞戦争ニ資與セラレ救済ノ努力
ヲ盡サレンコトヲ期待スルモノナルカ果シテ可能ナリヤ
(三) 基本條約ノ問題ハ日本側ノ立場ヨリスレハ之カ取扱ヲ慎重ニス
ル要アリ今回ノ新政策ノ實行ニ付テモ國內的ニハ相當ノ困難ヲ
リタルカ漸ク之ヲ克服シテ今其ノ緒ニ着キタル所ナリ若シ此ノ
問題ヲ中國側ヨリ正式ニ持出サルルトキハ困難ニ逢着スヘシ

外務省

0357

陳特使ノ答辯
唯今ノ閣下ノオ話ニ對シ簡單ニ申述ハタシ
(一) 蘇聯ノ問題ハ英米ニ對スルト同様東亞ニ取リテ重大問題ナリ實
ハ中國參戰ノ際心中切カニ期シタルハ對蘇問題ナリ即チ日本ニ
協力スルノ途ハ今直チニ南洋等ニ出兵スルコトニ非スシテ他日
萬一ノ際蘇聯トノ接觸カ漸漸ヨリ新 省ニ至レル際ニハ中國ハ
全力ヲ盡ケテ日本ト協力セントノ腹ナリ
(二) 國民政府ハ今日迄ハ其ノ治下ノ民衆ノ信賴スヲ無カリシ状態ナ
リ然ルニ參戰ヲ繼トシテ國民ハ始メテ政府ヲ支持スルニ至レリ
吾々カ政府治下ノ民心ヲ把握シ得レハ今後之ヲ全國ニ及ボスコ
トハ決シテ不可能ニ非ス之レカ爲メ吾人モ一層ノ努力ヲ拂フ覺

外務省

0358

141

日華同盟條約案
大東亞憲章

昭和十八年四月十八日記

外務省

0360

悟ナルコト勿論ナリ

(三)基本條約問題ニ付中國側ヨリ話ヲ持出スカ如キコトハ絕對ニナシ此ノ點ハ特ニ御安心願ヒタシ本日ハ全ク總理ノ御參考迄ニ自分ノ意見ヲ申上ケタルニ止リ假リニ之ヲ實行スルトスルモ日本側ノ自發的措置トナシ其ノ時期、方法等ハ總理閣下ニオ任ヤスル譯ナリ尙中國側ニ於テハ政府ハ勿論民間ノ輿論界ニ於テモ斯カル論議ヲ持出スコトハ有リ得ス又今日閣下トノ話モ極秘トシテ他ニ漏ラササル様致度キ考ナリ

(清水書記官記)

外務省

0359

142

條約締結ノ趣旨

本條約ハ我カ公正ナル戰爭目的ノ表示ニ依リ大東亞諸國ノ自發的
 協力及結合ヲ計ルヲ目的トシ
 戰後ノ抱負ヲ宣明シ敵側ノ策動ヲ完封シ併セテ敵ノ武器ヲ奪ツテ
 我ニ於テ之ヲ利用セントスルモノナリ
 國內ニ對シ我戰爭目的ヲ明示シ將來ニ對スル國民ノ大責任ヲ自覺
 セシメ戰爭完遂ノ精神ヲ喚起セントスルモノナリ
 本條約ハ大東亞機構建設憲章ノ實體ヲナスモノニシテ共榮圈内各
 國（日、滿、華、泰、ビルマ及比國）カーツノ共同機構ヲ作り定
 時若ハ隨時ニ東京又ハ其ノ他ノ地ニ於テ會同シ戰爭遂行上及今日
 ヨリ平和時ニ於ケル共力ニ付テ協議スルノ組織ヲ成立セシメント

外務省

0361

143

スルモノナリ

從ツテ本條約ハ平等衡平ノ建前ヲ堅持シ帝國ノ大東亞共榮圈ノ指
 導者タルコトハ事實問題トシテ苟モ表面ニ現ハササルコト得策ナ
 リトス
 從來ノ用語中例ヘハ道義ニ基ク新秩序ノ建設又ハ、、、ヲシテ
 各々其ハ所ヲ得セシムル云々ノ如キ相手方ニ疑惑ヲ起サシムル字
 句及感念ハ之ヲ排スルヲ得策トセリ

外務省

0362

1684

條約締結ニ關スル注意

本條約ハ寧ロ成ルヘク速ニ遅ク共六月末迄ニ交渉調印ヲ終ルヲ可トス

調印後成ルヘク速ニ第一回ノ兩國首腦部會同ヲ東京ニ於テ開催スルコト可然シ

本條約ハ日華間ニ交渉ヲ繼メ調印前滿洲國及泰國ニ内示シ調印後滿洲國及泰國ト同様ノ條約ヲ締結ス

尙將來成立スヘキヒルマ及比國トモ同様ノ條約ヲ締結シ茲ニ大東亞地域ニ於ケル國際機構ヲ建設スルコトトスヘシ

0363

外務省

145

前文

日華兩國ハ大東亞地域ニ於ケル各國ト協力シテ之等諸國ノ獨立及自主的發展ヲ意圖シ大東亞ニ於ケル恒久的の平和ヲ樹立シ共同ノ建設ヲ實現スル目的ヲ以テ及此目的達成ノ爲メ有ユル障害ヲ除去センカ爲メ左ノ通り約定ス

第一條

日華兩國ハ双互ノ立場ヲ尊重シツツ大東亞戰爭遂行ノ爲メ戰時ニ於テ軍事上政治上及經濟上有ユル協力ヲ行フヘク之カ爲メ常時必要ナル協議ヲ行フヘシ

尙右ノ爲メ必要ナルニ於テハ適時業務上ノ取極ヲナスヘシ

0364

外務省

146

第三條

軍事行動繼續中ハ陸海空ニ於テ軍事當局ノ必要トスル軍事的措置ハ
許容セラルヘク、右ニ關スル新ナル事項ニ付テハ豫メ兩國政府間ニ
於テ相互ニ協議セラルヘシ

第三條

必要ナル協力業務ニ付テ審議スル爲メ兩國政府ハ關係國代表ト共ニ
定期若ハ隨時會合ヲ行フヘシ

第四條

前條會合ニ於テハ戰后ニ於ケル大東亞各國ノ「平等的」自主的發展
並大東亞ニ於ケル平和安定ノ維持、防衛及共同ノ建設ニ關スル各般
ノ事項ニ付協議行ハルヘシ

外務省

0365

145

第五條

締約國ノ一國カ第三國ト交戰状態ニ入ル場合ニ於テ他ノ締約國ハ直
ニ之ニ協力シ同様交戰状態ニ入ルヘシ

第六條

本條約ハ日華基本條約ニ代リテ實施セラルヘク、右基本條約ハ之ヲ
廢棄ス

本條約ハ調印ノ日ヨリ實施セラルヘシ

外務省

0366

148

第一、條約締結ノ趣旨

一 本條約ハ我が公正ナル戰爭目的ノ表示ニ依リ大東亞諸國ノ自發的協力及結合ヲ計ルヲ目的トシ

二 戰後ノ拘負ヲ宣明シ敵側ノ策動ヲ完封シ併セテ敵ノ武器ヲ奪フテ我ニ於テ之ヲ利用セントスルモノナリ

三 國內ニ對シ我戰爭目的ヲ明示シ將來ニ對スル國民ノ大責任ヲ自覺セシメ戰爭完遂ノ精神ヲ喚起セントスルモノナリ

四 本條約ハ大東亞機構建設憲章ノ實體ヲナスモノニシテ共榮圈内各國（日、滿、華、泰、ビルマ及比國）カーツノ共同機構ヲ作り定時若ハ隨時ニ東京又ハ其ノ他ノ地ニ於テ會同シ戰爭遂行上及今日ヨリ平和時ニ於ケル協力ニ付テ協議スルノ組織ヲ成立セシメ之ニ

外務省

0367

149

依ツテ實質的ニ我指導權ヲ確立セントスルモノナリ

五 從ツテ本條約ハ平等衡平ノ建前ヲ堅持シ帝國ノ大東亞共榮圈ノ指導者タルコトハ事實問題トシテ苟モ表面ニ現ハサザルコト得策ナリトス

六 本條約ノ締結日華日滿日泰ヨリ順序ニビルマ比島ニ及ボシ六月ヨリ着手シ十月ニ終リ日華條約案ハ歸朝中ノ谷大使ニ手交スルモノトス

0368

外務省

第二、條約案起草ノ基礎タル決定

一、日華同盟條約案

(一) 大東亞戰爭完遂ノ爲ノ對支處理根本方針 (昭和十七年十二月十八日連絡會議決定)

(二) 大東亞政略指導大綱 (昭和十八年五月二十九日連絡會議決定)

二、日緬同盟條約案

(一) 大東亞戰爭完遂ノ爲ノ緬甸獨立施策ニ關スル件 (昭和十八年一月十四日連絡會議決定)

(二) 緬甸獨立指導要綱 (昭和十八年三月十日連絡會議決定)

(三) 大東亞政略指導大綱 (昭和十八年五月二十九日連絡會議決定)

三、日比同盟條約案

大東亞政略指導大綱 (昭和十八年五月二十九日連絡會議決定)

外務省

0369

四、日泰同盟條約案及附屬協定案

(一) 對泰施策ニ關スル件 (昭和十七年九月十九日連絡會議決定)

(二) 大東亞政略指導大綱 (昭和十八年五月二十九日連絡會議決定)

五、日滿協定案

大東亞政略指導要綱 (昭和十八年五月二十九日連絡會議決定)

0370

外務省